

関西電力株式会社社長 八木 誠様

## 申し入れ

**ピノさんと共に 「脱原発」を求めます。  
美浜1号の10年延長は止め、即刻廃炉にし、増設計画も止めて下さい。  
国や原子炉メーカーと一体化した原発システム輸出を止めて下さい。**

若狭連帯行動ネットワーク

アメリカから来日されたピノさんは、30年にわたって、ウラン採掘反対の活動に取り組むと同時に、採掘による環境と先住民への健康、社会生活、文化など、様々な形での被害の調査研究にも携わっておられます。2008年には、他の先住民活動家とともに「核のない未来賞」(Nuclear Free Future Award)を受賞されました。ワシントン州のスポーケン川は、世界でも有数の核廃棄物貯蔵地であるハンフォード核施設があり、そこから漏出した放射能で川が汚染されサケを捕まえて食べることはもうできないと言われていました。しかし、自分たちが獲った魚で、がんになっているにもかかわらず、人々は魚を捕り続けているのです。原発から出る廃棄物は、安全に保管する方法が見つかりません。ヤッカマウンティンは、昔から先住民の土地です。ウラン採掘からはじまって廃棄物処理まで、先住民の土地に被害が押し付けられてきたのです。貴社に対して「脱原発」を求めます。

貴社は、運転開始から40年となる美浜原発1号炉を10年程度運転を継続すると発表し、それと共に同原発周辺で美浜4号炉の検討を始める方針を発表しました。これを機に脱原発へ進むべきなのに、老朽炉の運転延長や大型原発増設なんてとんでもありません。

地元福井の人たちは、美浜原発の度重なる事故に不安と不信をつのらせています。原発点検体制の欠陥や点検・事故情報の不備・遅れなどが重なり、運転を延長しても「本当に大丈夫か？」という不安が大きいのしかかっているのです。いつ何時、原発重大事故が起こるかもしれないという日常的な不安感が今後も払拭されないということにはもう耐えられないのです。美浜1号は、即刻廃炉にすべきです。

「原発による地域振興」は、原発運転40年の美浜町でも幻想でしたし、箱物建設の末にその維持費で困っているのが実状です。一時的な建設「熱」で住民をだますのはもう止めるべきです。

貴社は、これまでとは異なるグローバルな原発推進戦略へ方針転換しようとしています。

「地球温暖化防止対策を進める」国家政策への加担はもとより、少子高齢化の下で、国内電力需要の停滞が予想され、打開策として、国際電力市場での利潤追求に乗り出す方針を打ち出しました。従来のプラント輸出とは異なり、一電力会社が国家的な原発システム輸出の中心になり、PWRの運転管理を担い原発輸出の先頭に立つということの意思表示なのです。

貴社は国際事業の規模を約500万kW、約200億kWh(全販売電力量の約11%)へ引き上げようとしています。

しかし、新興国への大型原発輸出には、建設遅延による建設費の一層の高騰や製造欠陥が避けられません。政策的に低く抑えられた電気料金制度の下では電気料金による建設費回収もままならず、事故や故障で、設備利用率が下がれば赤字が続きます。無理に運転しようとするれば原発重大事故の危険を高めることでしょう。また、地震多発地帯では地震による重大事故の危険もあります。

債務危機と重大事故の責任を貴社がとらねばならないだけでなく、国際協力銀行(JBIC)を通じて投資された国民の郵便貯金も焦げ付き、国の債務保証を通して国民の税金が投入されることになるのです。財政危機の深刻化・国家破綻のリスクを冒し、グローバルな原子力災害の危険を高めるような原発システム輸出は止めるべきです。

国内外での原発推進を止め、先住民の生命・健康と生活を破壊するウラン採掘を止めて下さい。貴社の購入したウランの採掘により生じた先住民のガン・白血病、健康障害等への補償に協力して下さい。